



# 園だより

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

文京区立第一幼稚園  
令和5年度11月号

## 行事のその後

副園長 工藤 真規子

朝夕は肌寒く感じますが、日中は日差しが暖かく、動いていると半袖で過ごすのが気持ちよいほどです。園庭や屋上は、サッカーやしっぽとり、二輪スクーターなどさまざまな遊びで入れ替わってとても賑やかです。

今年は、年長と年中混ざってのリレーやダンスなど運動会の遊びが長く続きました。これまでの二部制で行っていたときも他学年の練習を見たり応援したりしてきましたが、やはり当日の高揚感や一体感を皆で味わったことが、幼児にとって大きな経験であったと感じています。

学年混合のエンドレスリレーは、バトンをもらって、走って次の人につなぐ、ということシンプルに楽しんでいます。年長だけのリレーと比べると勝敗や作戦などの競技性は薄まりますが、短い距離を自分の番がくるたびに何度も走るの、あまり疲れずに意外とたくさん走ります。楽しいと1時間近く続けていることがあり、相当な運動量です。汗びしょりになると誰ともなく水飲みタイムになり、中断をはさんでまた続きが始まります。

年少は、どうぶつ玉入れを楽しんでいます。本当の玉入れのカゴは高さがあり上を狙って投げるのは難しいので、担任は写真のような「的」を用意しました。最初は玉を手を持ったまま直接ポトンと穴に落として入れていた子が、一歩的から離れて投げてみる、入ったら次はさらに一歩下がって投げてみる、ということを繰り返していました。

毎月、文京区の幼稚園の教員が集まり研修をする機会があります。私の所属している運動遊びに関する部会で学んだことが、学年混合リレーや玉入れをはじめとする様々な遊びの現場で見られ、幼児の発達の姿を毎日のように目にすることができました。幼稚園教育要領解説「健康」では、「幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であるが、幼児は自発的にそのときに発達していく機能を使って活動する傾向がある。」としています。幼児が繰り返し楽しんでいることは、『発達の最先端（いま、まさに伸びようとしている部分）』である、ということです。それに関連して、幼児期運動指針では、繰り返しは『量』であり、その質を高めるのは『バリエーション』だとしています。どうぶつ玉入れで、的の穴の高さや距離が様々な難易度で試せることがそれにあたります。年中・年長のしっぽとりや宝取り鬼でも陣地の位置、距離、ルールなど幼児の実態に合わせて工夫しています。



幼稚園の行事はその日がゴールではなく、取り組んだ経験を生かし、さらに発展していくよう、一日の流れや教材、場の作り方を考えて、計画的に遊びや活動を積み重ねています。

年長はドームシティに遠足に行き、楽しい計画の相談が始まりました。年中、年少もこれから遠足に行きます。皆で経験したことが、また新たな生活につながっていくことでしょう。

一人一人の楽しんでいることや挑戦を読み取り、皆で日々の生活を創っていくことを楽しんでいきたいと思えます。